

第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

1 単元名

「地域の在り方～松ヶ丘中学校区の現状と未来～」

2 単元について

（1）単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会の地理的分野、内容の「C日本の様々な地域」、「(4)地域の在り方」を受けて設定している。本単元では、地域の実態や課題解決のための取組を理解することや、地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解することをねらいとしている。また、地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現することも併せてねらいとしている。本単元では、松ヶ丘中学校区についての調査を行うことで地域の課題を把握し、その課題の解決策を探る学習を通してねらいに迫る。

生徒が通学する千葉市立松ヶ丘中学校は、県道20号線（通称大網街道、以下大網街道と称する）からわき道に入った住宅街の中に位置する。学区の仁戸名町は古い歴史を持つ地域で、仁戸名市民の森には庚塚古墳群が、仁戸名小学校内には作山古墳群などの史跡が今も残っている。一方、中学校が位置する松ヶ丘町は、元々仁戸名町と宮崎町（学区の一つ）の一部であったが、1951年に松ヶ丘町として起立した町名としては比較的新しい町である。この二つの町の境目に位置するのが松ヶ丘中学校で、二つの町を区切るように通っているのが大網街道と土気往還である。大網街道は、高速道路の側道からおゆみ野、誉田、土気に至る道となっており、片側一車線ながら非常に交通量が多く、たびたび渋滞が発生している道路である。コンビニや広い駐車場を有する飲食店が街道沿いに立ち並び、仁戸名町、松ヶ丘町のメインストリートとも言える通りである。しかし、店じまいをした個人商店が目立っており、交通量の多さが町の繁栄に繋がっていないことがわかる。同様のことは大網街道から松ヶ丘中学校側に一本中に入った道（土気往還）でも見られ、こちらもシャッター通りになっていて、地域経済の様子が見て取れる。このほかにも、大森町や宮崎町の一部が松ヶ丘中学区となっているが、仁戸名町、松ヶ丘町とは異なる地域性を有している。

大森町と宮崎町は一部が蘇我中学校区である地域で、仁戸名町、松ヶ丘町よりもJR蘇我駅に近い。大森町は大森小学校前の道沿いに個人商店や銀行が数軒見られ、小学校を取り囲むように一軒家が立ち並ぶ。また、大森小学校の裏手は低い土地となっており、高架下をくぐった先は住宅地のなかに畑や空き地などが目立つ。宮崎町は、大森小学校を挟んで大森町の向かい側に広がる地域で、大森町と同じく大部分を住宅地が占める一方、個人商店や大型のスーパーはあまり見られない。

このように、同じ学区と言っても異なる地域性を持つため、地域が抱える課題も異なってくる。その課題の一つが、人口の減少である。仁戸名町と松ヶ丘町は、30年前（千葉市がHPで公開しているデータが30年前までのため、今回は直近30年のデータでの比較とする）と比較して人口が減少している。これは、日本全国の多くの自治体で見られる現象と変わりはないが、一方で大森町と宮崎町はどちらも30年前と比較し人口が増加している。また、内容を詳しく見てみると、平成5年

から令和5年にかけて、仁戸名町は人口が約3000人減少しているのに対し、宮崎町は3000人以上人口が増加している（松ヶ丘町は約400人の減少、大森町は約400人の増加である）。加えて、もう一つの学区である星久喜町の人口も合わせると、松ヶ丘中学校区の人口は30年で約1000人増加している。この違いの理由については、周辺施設の建設や利便性の向上、開発など様々な要因が考えられるが、その一つに「交通」が関わっていると考えられる。上記のように、大森町と宮崎町は、JR蘇我駅に近い地域である。蘇我駅は三つの路線が乗り入れる駅で、東京まで乗り換えなしで約一時間弱という距離にある、非常に利便性の高い駅である。この駅まで、特に宮崎町は徒歩15～20分圏内にある地域であり、大森小学校の前を通る道には蘇我駅行きのバスも運行している。対して、仁戸名町や松ヶ丘町は蘇我駅までは徒歩で30～40分を要する。蘇我駅や千葉駅方面に向かうバスも出ているが、主要な通りに出なくてはならず、アクセスは決して良くはない。さらに、仁戸名町の半分近くは大網街道より低地に位置しており、蘇我駅方面に向かうためにはそれなりの坂を上らなくてはならないという不便さがある。蘇我駅まで至らなくても、途中には京成大森台駅があるため、一見交通の便は良さそうに見えるが、京成大森台駅は朝の通勤時でも一時間に三本（多くても四本）しか運行しておらず、利便性に長けているとは言い難い。このような違いが各地域の課題を生じさせていると思われる。

そこで本単元では、まず第1時に仁戸名町、松ヶ丘町、星久喜町、大森町、宮崎町の地形や周辺施設、交通状況などを調べ、各地域の特徴をとらえさせる。第2時では航空写真を用いて地域の変容を確認させつつ、松ヶ丘中学校区の人口動態のグラフを作成し、地域の変化を人口の面からとらえさせる。また、同じ松ヶ丘中学校区であるにもかかわらず人口が増えている地域と減っている地域があることに気付かせる。本時となる第3時では、前時で調べたことをもとに、なぜ同じ中学校区において人口が増加している地域があるのか考察させ、地域の現状と課題を明らかにする。第4時、第5時では、考察した地域的課題を解決する方法を考え、これまでの学習の中で学んだ取り組みや調べる中で発見した取り組みをもとに、持続可能な地域の在り方について考察しまとめる。第6時では、まとめた課題解決案を班ごとに発表させる。単元の終末となる第7時では、なぜ地域的課題が解決できないのかについて話し合い、今回考察した課題以外の地域的課題について考えさせ、地域の課題解決の難しさについて考えると同時に、地域社会の現状について理解させる。これらの学習を通じて、生徒が地域社会に関心を持ち、関わっていく姿勢を育成することを目指したい。

（3）本校研究主題との関連

本校は令和4年度より千葉市教育委員会研究指定校に指定され、「カリキュラム・マネジメント」をテーマに研究に取り組んでいる。昨年度は吉田松陰の松下村塾に着想を得て銘打った、学力向上プラン「松ヶ尊塾」の推進を中心に、これまで実践してきた教育活動を生かしながら、生徒の学力向上ならびに学校教育目標の実現に向けた取り組みを実践した。松ヶ尊塾では「一人一台端末（ギガタブ）の活用」と「地域連携を取り入れた学力向上プランの実施」の2つを柱として推進している。ギガタブの活用については、江戸時代の寺子屋が「読み・書き・そろばん」を教授していたこ

とに倣い、松ヶ尊塾ではこれを「読み・書き・ギガタブ」とし、読み・書きに加えてＩＣＴを活用する能力を育むことを目指している。また、ギガタブがシャープペンシルなどの文房具と同じように生徒にとって身近なものになることで、これを入り口として意欲的・主体的に学習に臨むことを目指した。地域連携については、学習活動や部活動などで多くの地域人材を取り入れている。昨年度の取り組みについては一定の成果が見られたが、教育課程外のものが多く、本当の意味でのカリキュラム・マネジメントが行われていなかったと感じている。また、教科横断的な学習（の取組）があまり進んでいなかったと言える。そこで今年度は、「地域」をテーマとした総合的な学習の時間を軸にして、カリキュラム・マネジメントに取り組むこととし、研究を進めている。社会科では、その一環として地域学習を取り入れるため、本単元を設定した。地域を調べて理解し、課題を見つけ解決しようとする学習を通して、地域社会への興味・関心やその地域に生きる住民としての自覚を育み、主体的に地域と関わっていく姿勢の育成のため、第７時の時間を設定し総合的な学習の時間を社会科の時間に組み込むこととした。

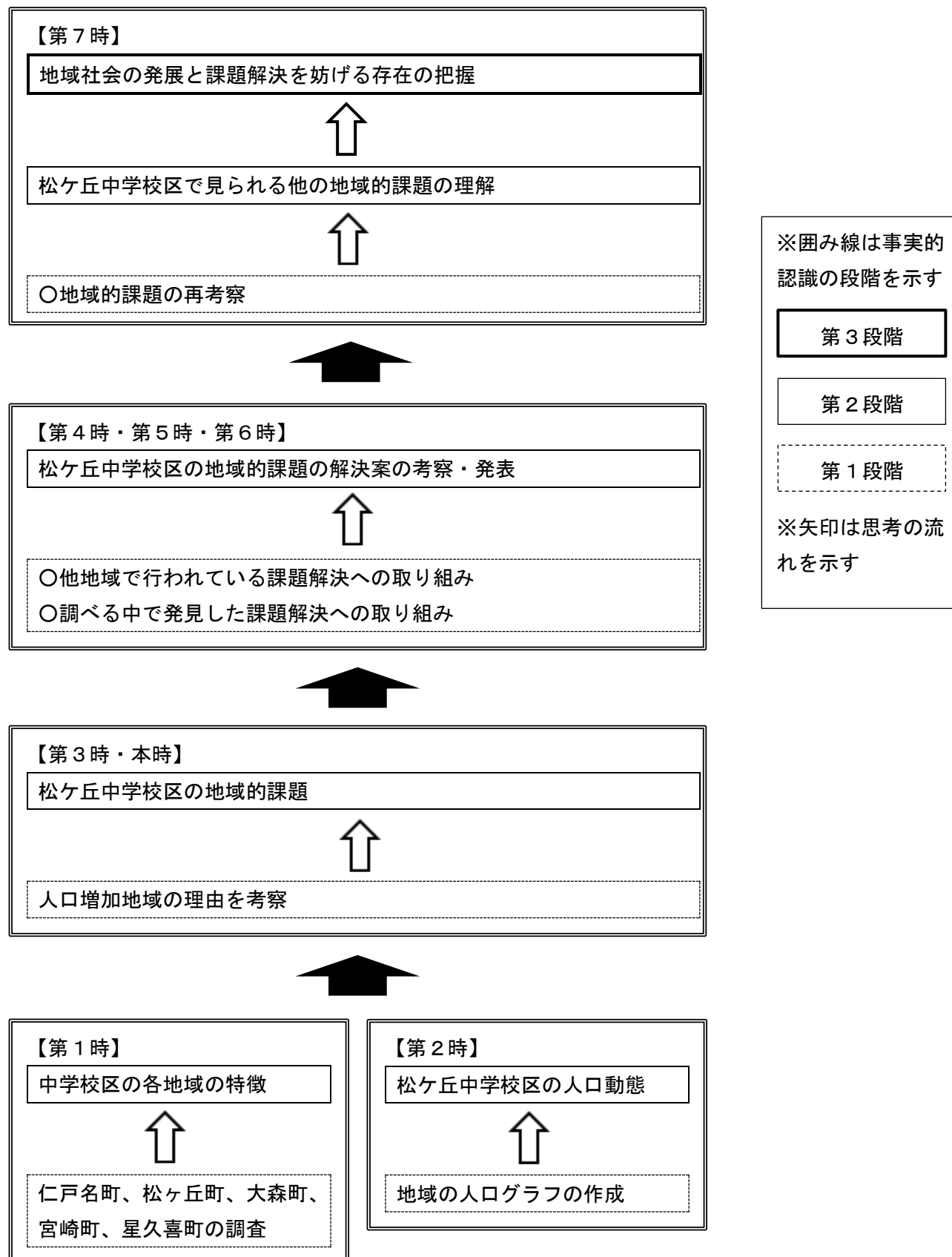
3 単元の目標

- ・ 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解する。
- ・ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解する。
- ・ 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・ 地域の在り方について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解している。 ・ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。	地域の在り方を、他の地域との結びつきや変容、持続可能性などに着目しながら、調査対象地域で見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	地域の在り方について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 単元の学習計画



6 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 航空写真から、地域の変容を読み取ることができる。 (知識・技能)
- ・ 資料を基に、人口増加の要因を考察することができる。 (思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

指導過程	学習内容と活動	留意点及び評価
導入 5分	○前時の最後に抱いた疑問を振り返り、本時でやるべきことを確認する。 ○学習課題を提示する。	○机を班の形にする。 ○生徒が第2時に作成したグラフを提示する。
学習課題 同じ中学校区で、人口が増加している地域と減少している地域があるのはなぜだろうか？		
展開 35分	○補助発問を板書する。 「宮崎町の人口が増えている理由を探ろう」 ○配布された資料から、松ヶ丘中学校や駅を見つけ出し○で囲む。 ○資料から地域の変化を読み取り、その理由を考察する。 ○班で考察した内容を発表する。 〈生徒の反応例〉 ・ 田んぼ（畑）が家に変わってるから ・ 駅に近いから など ○配布された補助資料から、再び班ごとに理由を考察する。	○5つの地域にまたがるため、今回は最も人口が増加した宮崎町について考えさせる。 ○宮崎町中心となる航空写真を配布する。 ○机間巡視し、見つけられない班のサポートをする。 ○机間巡視しながら「わからない」と発言する生徒や首をかしげる生徒を見つけ、困っている内容を引き出しながら班の中で共有していく。 ○生徒の反応に対して問い返す。 《問い返し例》 ・ 田畑が家に変わった →なぜ田畑が家に変わったと思う？ ・ 駅に近い →大森台駅近くでも増えている？ ○京葉線の開通状況、蘇我駅と大森台駅の時刻表、宮崎町・仁戸名町それぞれの代表地点から京葉線までの徒歩での所要時間の資料を配布する。
終末 10分	○自分の班、他の班から上がった内容から、人口増減の理由をまとめていく。	○手が止まっている生徒の困り感を引き出し、班員につなげる。